



【東京支社】超党派のリーニアコニイター国際研究所建設推進議員連盟のメンバーは29日、ドイツ連邦議会のステファン・カウツマン議員と意見交換した。国際リーニアコニイター（ILLI）計画の欧州側の調整役を担うカウツマン氏は「日本政府が年内に前向きな姿勢を示せば、欧州の研究者、ドイツ政府は好意的にサポートするのではないか」と語った。

「独政府、好意的に支援も」 欧州側調整役 日本の議連と懇談 カウツマン議員



ステファン・カウツマン議員（右）らと意見交換する議連のメンバーら

同議連の鈴木俊一副会長（衆院岩手2区）、塩谷立幹事長らが国会内で、カウツマン氏とドイツ電子シクロトロフ（DESY）のヨアヒム・ムニツク所長、フランクのサクレ研究所（Saclay）のマキシム・ティエトフ氏と懇談した。カウツマン氏は「ドイツ、フランスでもILLIへの関心が高い。日独仏の3国を軸に計画を推進できればいいと思う」と答えた。財政面の協力に関しては「実現すれば運用段階で各国からさまざまなパートナーが得られ、財政的なサポートもあると思う。ただ誘致国に

はある程度のリスクが残ることも否定できない」と述べた。

鈴木氏は「東北はプロシエクトの受け入れ準備を綿密に進めている」と強調した。

カウツマン氏は30日、本県を訪問し、ILLIの建設候補地を視察して遼寧知事らと意見交換する。